

# あそびかた研究会 公開講座

日時:2013年6月9日(日)13:00~17:00(受付12:30~)

場所:大阪市立総合医療センター 3階 さくらホール(ドトール横エレベータで3階へ)

JR桜/宮 徒歩7分・地下鉄谷町線都島 徒歩3分

参加対象者:病気を持つ子どもやご家族に関わっている方、これから関わりたい方 等

参加費:無料 定員:100名程度(先着順) 申込締切:5月24日(金)

\* 申込み方法(メールのみ):あそびかた研究会HPより申込アドレスにご連絡ください

あそびかた研究会HP:<http://asobikata.org/>

\* 電話での問い合わせ先:06-6578-3802 10:00~16:00 こどものホスピスプロジェクト事務局

《プログラム》 \* プログラムは予告なく変更する場合がございます

1. あいさつ:「あそびかた研究会立ち上げの経緯」 岡崎 伸

2. 第1部 13:30~15:15

講演:「病氣になってもいっぱい遊びたい」

NPO法人病氣の子ども支援ネット遊びのボランティア

理事長 坂上 和子先生

第2部 15:30~17:00 交流会

「あそびかた研究会 4回分の報告」

講師プロフィール/坂上和子

1954年生まれ。10~19歳までをカトリックの児童養護施設星美ホームで過ごす。1977年、上智社会福祉専門学校卒業。保育士。同年2003年、新宿区立保育園、心身障害児者通所訓練施設、子ども家庭支援センターに勤務。

2005年、明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業。1991年に国立国際医療センターの小児病棟に遊びのボランティアを立ち上げる。その後、首都圏6か所に広げる。NPO法人「病氣の子ども支援ネット遊びのボランティア」理事長。全国病弱児教育研究会会員、日本子育て学会会員、現在武蔵野大学大学院人間社会研究科1年。

著書 病氣になってもいっぱい遊びたいー小児病棟に新しい風を!遊びのボランティア17年  
病院で子どもが輝いた日ーひろがれ!入院児保育 共著

# \* 主催:あそびかた研究会 \*

## \* あそびかた研究会とは？

一般社団法人こどものホスピスプロジェクト・しぶたね(Sibling Support たねまきプロジェクト)・入院している子どもにあそびを届けるボランティアグループ。あそぼっくるの3グループが共催し、病気をもつ子どもさんやそのご家族のことを一緒に学んだり、情報交換や新しいあそびのアイデアを作り上げていければと思います、立ち上げたプロジェクトです。

## \* 各団体のご紹介 \*

### \* 一般社団法人 こどものホスピスプロジェクト

こどものホスピスは、1982年に英国オックスフォードで始まった活動で、生命に限りあるまたは生命を脅かす病気とともに暮らす、こどもたち、きょうだい、ご家族、それぞれを主人公に、そのニーズにあったかかわりを行います。様々なスペシャリスト(医療・福祉・教育など)やボランティアが、友として寄り添い(Befriending)、大切な時間を過ごします。病院や在宅機関などと連携し、家庭的な関わりで切れ目のない小児緩和ケアを行います。こどものホスピスプロジェクトは、英国こどものホスピス「ヘレンダグラスハウス」との交流を経て、日本でこどものホスピス活動を行っています。

HPアドレス:<http://www.childrenshospice.jp/>

### \* しぶたね(Sibling Support たねまきプロジェクト)

子どもが大きな病気になった時、お家の兄弟姉妹(きょうだい)たちも、たくさんの不安や心配、寂しさ、しんどい気持ちを抱えることがあります。

自分のせいできょうだいが病気になったかも？と思っている子には「そうじゃないよ」と、寂しくて不安な子には「ひとりじゃないよ」と、小さなからだで頑張っているきょうだいさんたちに、頑張ってること知ってるよ、笑ってもいいんだよ、ここにいていいんだよ、あなたはたったひとりの大切な子どもなんだよ、と伝えたくて「しぶたね」はうまれました。

主な活動は、きょうだいが主役になって安心してあそびきるイベント「きょうだいの日」の開催と、大阪市立総合医療センター内で、面会中の親御さんを待つきょうだいと一緒に過ごす活動です。きょうだいが、そのまんま、まるごと受け止められ、いっぱい愛されて、自分を大切にできる大人になっていけるように…安心して楽しくすごせる場、たくさんの人の愛情を感じられる場を作ることが目標です。

HPアドレス:<http://blog.canpan.info/sib-tane/>

### \* 入院している子どもにあそびを届けるボランティアグループ あそぼっくる

子どもにとって「入院する」とはどういうことなのでしょう？

入院には、さまざまなつらさが伴います。痛さやつらさをガマンする毎日の中で、ほんのいっときでも、治療にまったくかかわらない大人が来て、自分らしく思いっきりあそぶ時間があるなら、それは子どもにとって、どんなに意味のある時間でしょう。すぐ後に痛い注射が控えていたとしても、今を生きる子どもにとっては、この一瞬一瞬にあそびが必要だと私たちは考えます。

あそぼっくるは、2000年6月大阪市立中央青年センターで開催された「入院している子どもに「あそび」を！」という連続講座の参加者の有志で作ったグループです。講座終了後に自主的に集まり、入院している子ども達にあそびや楽しい時間を届ける活動を始めました。現在は、大阪市立総合医療センターで、定期的にあそびを届ける活動や院内学級のワークショップなどを行っています。「あそぶこと」を通して、子どもたちの笑顔を作りたい、そんな思いをこめて、活動をしています。